

第 10 章

参考資料：

東南アジア大陸部におけるベトナム仏教寺院分布 — Google Maps と GPS 情報を用いた可視化の試み

木谷 公哉

1. 分布図の概要

本資料では、タイおよびラオスにおけるベトナム仏教寺院の分布を可視化した結果を示す。

本分布図は Google My Maps 上で公開しており、以下の URL からインタラクティブに閲覧可能である。

- ・ タイ (図 A1)

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1w1Kz57aKwErr9nk5g5Pyql1vGKrR84k>

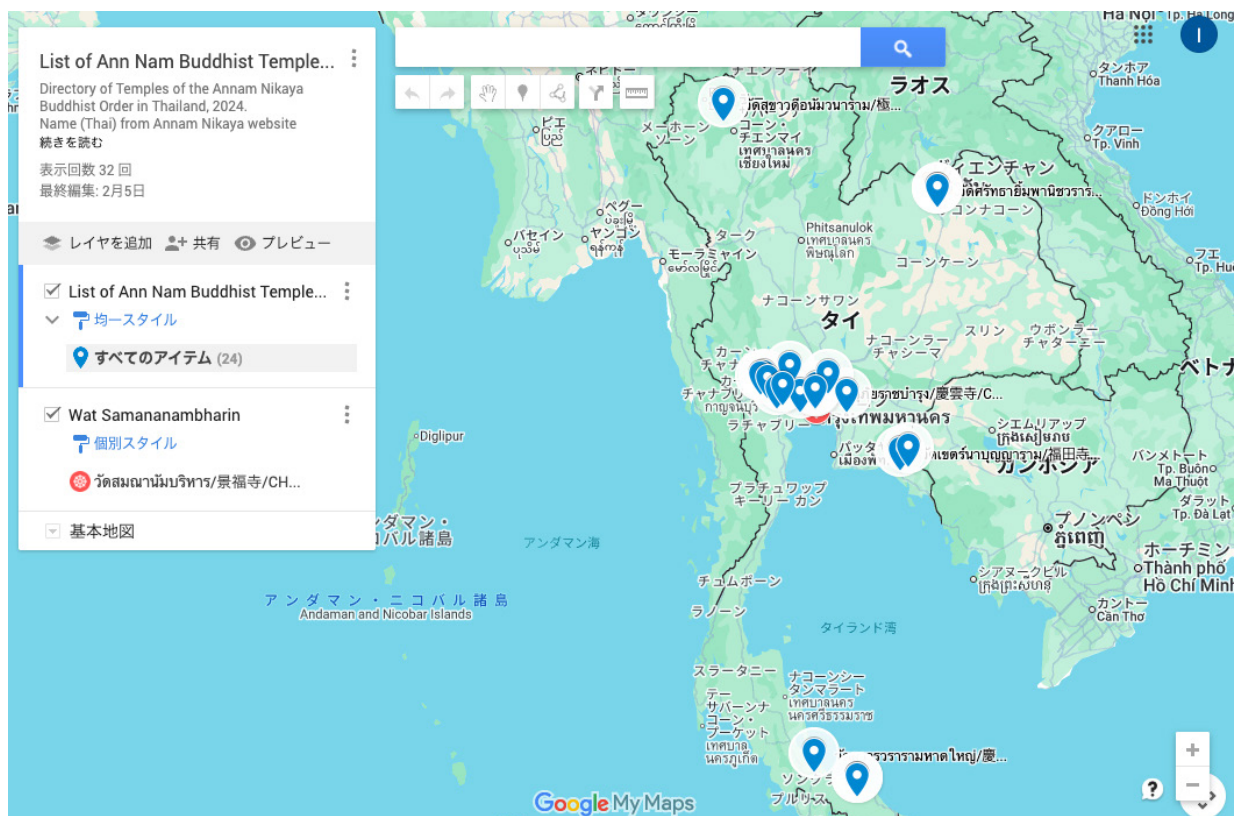


図 A1 タイにおける安南派仏教寺院分布図 (Google My Maps をもとに筆者作成)

- ・ ラオス (図 A2)

<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1KXhaITQfaYC8MKunhDgy3LpVQWQ-cQQ>

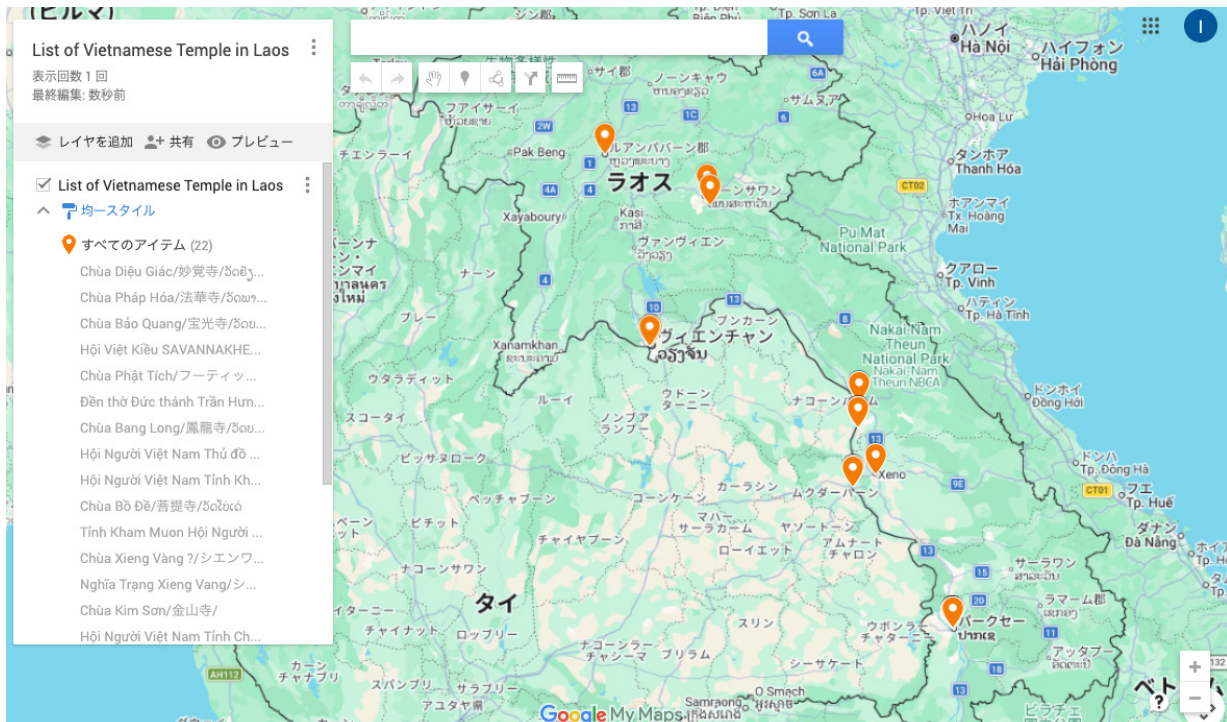


図 A2 ラオスにおけるベトナム仏教寺院分布図 (Google My Maps をもとに筆者作成)

各国ごとにレイヤーを分けることで、分布状況の比較が可能な構造とした。

2. データ作成方法

本資料では、地点情報の取得には研究者による現地での GPS 測定および Google Maps における既存地点情報を併用し、可視化には Google My Maps を用いた。

Google Maps は地点情報の参照・確認および既存地点の利用のための基盤として機能し、Google My Maps はそれらの地点情報を整理・可視化するためのツールとして位置づけられる。

2.1 基礎データ整理

寺院リストを Google スプレッドシート上で整理し、名称および GPS 情報（緯度・経度）を確認・修正した。

2.2 緯度・経度の決定

緯度・経度は、研究者による現地での位置情報取得（スマートフォンによる GPS 測定）および、Google Maps における既存地点情報を併用して確定した。

具体的には、以下の優先順位により採用した。

- ・ 研究者が現地で測定した本堂（主要建物）の位置情報
- ・ Google Maps に登録されている既存地点情報
- ・ 門（入口）において測定または確認した位置情報

この優先順位により、可能な限り実態に即した位置情報を採用した。

Google Maps の地点情報については、現地状況との整合性を確認したうえで採用した。

2.3 寺名の多言語統合

寺院名称は、現地語・ベトナム語・中国語の表記を統合した。最も完全な表記を先頭に置き、他言語を併記する形式とすることで、多言語環境における識別性と検索性を確保した。

3. 可視化用データ設計

Google My Maps へのインポート用データとして、以下の最小項目に整理した。

- 寺院名称
- URL (参照情報)
- Google Maps 登録情報
- 緯度
- 経度

項目を最小限に限定することで、可視化処理を簡潔にし、再利用可能な構造とした。

4. Google My Maps による可視化

整理したデータを Google My Maps にインポートし、地点情報として登録した。国別にレイヤーを分けることで、分布の比較および分析が可能な構造とした。

5. 本資料の位置づけ

本資料は、第3章で提示した研究データ管理（RDM）における整理設計および可視化の具体例として位置づけられる。ここで示した手法は試行的なものであり、今後の研究対象やデータ条件に応じて調整が必要となる。

本資料で示した分布図および可視化データは、研究データの再利用および検証を目的として公開するものである。